

臨床レポート

「インプラントポジショニングゲージ」を用いた、埋入位置の確認と決定

クレモト歯科診療所(大阪府) 呉本 時男

近年、歯科用CT(CBCT)の普及と共に、SimPlant(図1)に代表されるシミュレーションソフトの開発が進み、サージガイド(図2)を用いたインプラント埋入手術が一般的になってきた。

これは、様々な骨移植テクニックの考案、骨造成のための材料の進歩により、インプラント治療が、外科主導から補綴主導へとシフトしてきたことによるものと思われる。

かつて、CTやシミュレーションソフトのなかった時代には、パノラマレントゲンや口腔内模型を用いて診断し(図3)、インプラントの埋入位置と方向を決定する診断用ステントや外科用ステントと云われるものを用いて、インプラント手術を行っていた。(Stentは18世紀の英国の歯科医師Charls E Stentの名前に由来する)

従来から、埋入位置や平行性を示す器具は幾つかあるが(図4)、操作や適応に制限があった。

また、サージガイドを用いても、不適切な使用により、埋入位置のずれが起こることもある(図5:右下6部のインプラントが、遠心にふられてる。)

この度インプラテックスから発売された「インプラントポジショニングゲージ」(図6)は、インプラントの正確な埋入位置や方向を見るものではないが、埋入位置の確認を簡便に行えるものとして、非常に使い勝手の良いものである。

症例1:右下4・5・7へのインプラントの埋入手術

サージガイドを用いて、インプラントの埋入位置にパイロットドリルで形成し、パラレルピンを挿入する。(図7)

埋入するインプラントの径に合わせたインプラントポジショニングゲージを組み合わせ、パラレルピンに沿わせて、位置の確認を行う。(図8)

症例2:上顎1・1欠損症例(図9)へのインプラント埋入手術

インプラントの埋入位置と方向をサージガイドに合わせて、パイロットドリルで形成。

インプラントポジショニングゲージで位置を確認(図10)

T's Bone Spreadingを用いて、埋入窩を形成(図11)

この様に、サージガイドの補助として用いる事が推奨されるが、臼歯部の少数のインプラント埋入であれば、サージガイドを用いなくても、インプラントポジショニングゲージ単独で埋入位置を決定することも可能であろう。是非、インプラント埋入手術の基本セットには入れておきたい逸品である。(追記:他社のインプラントシステムでもほとんど問題なく使用できる)

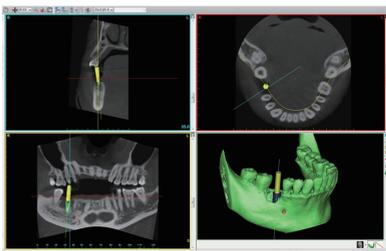


図1



図2



図3



図4



図5



図6

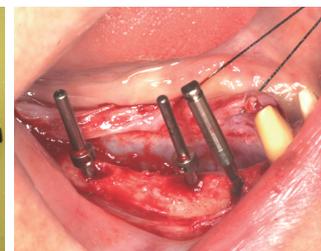


図7

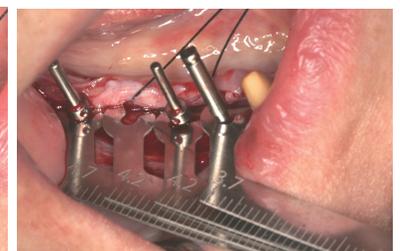


図8



図9

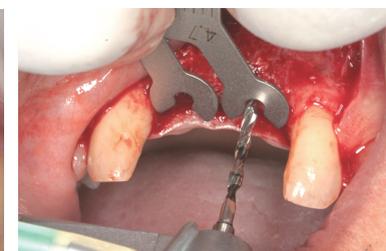


図10

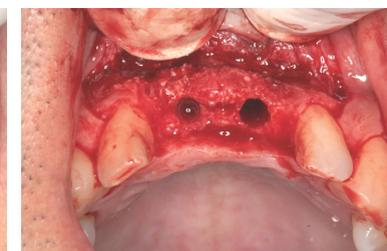


図11



T's Bone Spreading